

二〇二五年度 入学試験問題

国 語

第一回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから九ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

神話というのは、基本的に「この世界」がどうやって作られたかを描写します。「海」「空」「大地」といった自然的な事物の成り立ちや「シゴの世界」と「生」の関係を物語形式で説明していくのが神話です。「宗教的な迷信」を排した近代社会に生きる読者からすれば、「いまさら神話？」と思われるかとは思いますが、しかし、われわれが無条件に信じている近代社会の「神話」をソウタイ化して見るためにも、神話の作用を検討することには意味があります。実際神話は、神話世界と祖先との関わりを示すことで、神話を聞いている人自身の社会的なポジションを確定するという機能を担っているのです。具体的に見てみます。お願いしたいのは、これらの神話をまだ「私」の意識を獲得していない幼児の立場で聞かされていると想定してみてもいいということです。まだ何も分らない子どもが「世界」というのは、こういうものだ」と最初に言い聞かせられている場面を思い描いてください。神話がいかに暴力的に「私」の社会的な位置づけを決めるものであるのかを追体験いただければと思います。

A ユダヤ教、キリスト教、イスラム教に共通する世界創造の神話、「創世記」を見てみましょう。それは「はじめに神は天と地を創造した」とはじまります。断定です。世界はこのように作られたというところから話をはじめまっています。「天と地」の後、「世界」のあらゆるものが神によって作られたといわれます。「神は「光あれ」といわれた。すると光があった」「神はまたいわれた、「水の間におおぞらがあつて、水と水とを分けよ」／そのようになつた」と続きます。ギリシア神話などに比べると「ドラマ仕立て」でない分、物足りないところもあるかもしれませんが、「創世記」では休日付きで七日間、きつちりと順を追って「世界」が作られる過程が描かれます。一週間の最後の「キエウソク日」には、神と同じように人間も休まなければならないというルールは、今日ではなかなか守られないものになっていますが、聖書の神話から導き出されるものでした。

こうして「世界」が作られた後、最後に「人間」が作られ、「世界」における「人間」の役割が示されます。神は自分自身に似せてアダムを作り、アダムの肋骨からイブを作り、他の動物たちの支配者として繁栄せよと命じたといわれます。

この「最初の人間」の創造によって、それを読んでいる人の社会的な位

置が定められていることに注意してください。特に「創世記」は、その後に「アダムとイブはセツを生み、セツはエノスを生み、エノスはカインを生み……」と、「ノア」や「アブラハム」などといった聖書のビッグネームを挟みつつ、話を読み手の現在に繋げていきます。これらの人々は「あなた」の祖先なのだというわけです。「あなた」は、これらの人々の子どもであり、その子どもとして「世界」の中にいるといわれます。ユダヤ教でもキリスト教でもイスラム教でも、「創世記」の神話作用を「自分」の社会的な位置を確定する場面で被った人間は、こうして神の天地創造以来、何千年もの歴史を経て「自分」がいるという「自己意識」を獲得することになるのです。

(2) 近代における「私」の神話は、こうした宗教の神話をいったん解体した上で「はじめに私があつた」というところからはじめられました。自己決定が神聖視され、無意識下の影響を排してなお「私」の主体性を死守するのが、近代の神話です。「私」を起点に社会契約のフィクションを描き、社会における人間の権利を定めることで、われわれは「自分」がどのような存在であるかを知るといわけです。

B いずれの思考の枠組みも、各人が「私」をどのような存在として社会的に位置づけるかに関わっていることがお分かりになるかと思いますが、「私」というのは「自己意識」を指すといいましたが、過去からいまにつながる「自分」をどのように位置づけるかによって、「私」といふべきものの中身が異なります。近代社会は、人間を宗教的な物語から解放しましたが、その代わりに「私」の神話を人々に伝えました。共通の思考の枠組みは、こうしてその都度、神話を紡ぎながら作られてきたのです。

(3) では、新しい思考の枠組みとしては、どのようなものが考えられるのでしょうか。実際のところ、見出されるべき「新しい思考の枠組み」が具体的にどのようなものかは、あらかじめ設定されるべきではないと思われます。新しく見出される思考の枠組みは、実際に「ゼロ地点」に立ち返ったところから導き出されるべきものだからです。重要なのは C、その際にいつでも守られるべきルールを設定することだと思われます。どのような思考の枠組みを導き出すにしても、そこに「自由」と「平等」が保障されるべきだというのが本書の提案です。自分で納得のいく思考の枠組みを得る「自由」と、多様な言説の可能性を同等に扱い、各人があらかじめ持っているバックグラウンドに関して差別を設けない「平等」です。

思考の枠組みはみなで共有してはじめて社会的な機能をもつもので、必ずしも各人が恣意的に変更できるものではありません。近代社会の神話も含めて、共通する思考の枠組みは基本的に各人にとって外側から与えられるものでした。しかし、外部から押し付けられる枠組みを受け入れるだけできないならば、われわれには自分でゲームを選択する「自由」はないことになります。しかし、本当にそうでしょうか。少し遠回りになりますが、言葉の機能について立ち入って見ることで、自分でゲームを選択する「自由」の可能性を考えてみたいと思います。

言葉というのは、それだけで見ると、単なる記号でしかありません。あらためて考えれば明らかだと思いますが、どんな言葉でも、それ自身においては、単なる音だったり、単なる線でしかありません。「光あれ」という単なる言葉と、それが実際に「光」という存在を十全に示すこととの間には、本来、かなりの飛躍があります。単なる言葉が「世界のあり方」を示すためには、それを神話として受け入れる姿勢が最初に必要とされるというわけです。もしそれがなければ、「神は「光あれ」といわれた。すると光があった」といった言葉は、単に知識として理解することはできても、「世界のあり方」を表して、その中に「人間」を社会的に位置づける作用はもたないでしょう。その言葉は、「納得」の手前で、自分にとってよそよそしいものに留まります。

しかし、言葉というのは、本質的によそよそしいものということができます。はじめての言葉を聞いても人はその意味をすぐに理解することはできません。言葉は最初、単に他人が話しているもの、聞こえてくる音声にすぎないわけです。

幼児が言葉を習得する場面を思い描いてもらえれば分かりますが、子どもは言葉を外国語を習得するように、タイケイ的に学ぶものではありません。「自分にとって身近な人が何か音声を発している（けど、それがどういうことを意味しているのか皆目見当がつかない）」という経験を繰り返し、その中で「あ、そうか」と気がつく体験を積み重ねます。その中で、よそよそしかった言葉に「意味」が見出されていくわけです。神話は世界の成り立ちとその中の「自分」の位置を示すものだったと思いますが、それは言葉に意味を与えていくことと言え換えることができます。世界で経験される様々な事柄が神話の言葉によって意味づけられていくというわけです。

D、そう考えると、各人の思考の枠組みを取り払い、ともに「ゼ

95

90

85

80

75

70

65

ロ地点」に立ち戻るといことは、言葉と意味との関係をいったんリセットするということになります。「私」になる以前の幼児がそうであったように、また、デカルトが徹底した疑いの中で到達した懐疑の淵のように、身体レベルでの現実だけがそこにあるような「ゼロ地点」が開かれます。特定の思考の枠組みに基づくことで言葉に意味が与えられているのだとすれば、枠組みが外されれば、「ヒカリアレ」という音を聞いても、それが直接的に経験される世界の明るさを指すものに、チョッケツしないことになります。そうしてすべての人々がそれぞれの思考の枠組みをいったん宙吊りにすることで、そこからともに新しい言葉を紡ぐことが可能になるでしょう。ともに「ゼロ地点」に立つ人々が、すべての神話を宙吊りにしながら言葉を吟味し、新しい「意味」を見出すことができるはずです。もしその新しい意味の立ち上がりには各人が参加できるならば、われわれは自分たちが共有する思考の枠組みを自ら納得する仕方で見出すことができます。意味を宙吊りにされた言葉の中で、ともに「なるほど、そうか」といえる事柄を見出していくことで、人々がともに同じ「世界」を見るための新しい思考の枠組みを得ることができるのです。そこでは、各人が納得できるゲームをする「自由」が人々に与えられることになります。

そのようなかたちで新しい思考の枠組みを作ること、あらゆる政治的・宗教的な背景をもつ人々を「平等」に受け入れることもできるはずですが。そこでは既存の宗教や新宗教、「私」にまつわる近代の神話もすべていったん宙吊りにされるわけですから、それらを否定することもできません。すべての思考の枠組みを外して「ゼロ地点」に立ち返るということは、どんな神話も排除せず「平等」に吟味することを意味します。あらゆる神話の可能性を同等の権利で吟味することこそが、本来、「多様性の尊重」といふべきものだと思います。

（荒谷大輔『資本主義に出口はあるか』）

120

115

110

105

100

★無意識下の影響：精神分析家ジークムント・フロイト（一八五六―一九三九）が提唱した考えのこと。ここでは、人間には「無意識」

の領域があり、「私」＝主体はその影響を受けながら意識的な生活をしているということを指す。

★デカルトが徹底した疑いの中で到達した懐疑の淵

：哲学者ルネ・デカルト（一五九六―一六五〇）の「方法的懐疑」において示される、物事を徹底的に疑い、すべてを判断停止のまま保留した状態にすること。ここからデカルトは「疑っている『私』は確実に存在している」という推論を導き、「私」の存在の確実性を示した（「私は考える、ゆえに私は存在する（コギト・エルゴ・スム）」）。

問一

——(1)「神話の作用を検討すること」とありますが、「創世記」の例では「神話の作用」によって私たち人はどのようなことになるかと述べられていますか。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 神による世界創造において、最初に人間が作られたのち、他の動物、海や大地が作られていき、最終的に現代にまでたどり着くという物語の形式をとり、世界の中の自分という「自己意識」を獲得するようになる。

イ 神による世界創造の最後に作られた人間が私たちの祖先であり、その後何千年もの歴史を経て、現在の自分までたどり着くのだという物語から、自分の社会的位置を確定し、世界との関係を意識するようになる。

ウ 神による世界創造という暴力的な位置づけによって存在し始めた世界が「最初の人間」を作り、その後の長い歴史を経て現在の自分が存在するという物語によって、私たちの社会的ポジションが確定される。

エ 神による世界創造から始まり、「世界」の支配者になれと神が「人間」に命じたという物語を通じて私たちの祖先が設定され、その直系の子孫としての私たちは世界の中に生きる意味を見いだすことができる。

問二

——(2)「近代における『私』の神話」とありますが、この言葉は、近代においても「私」という存在が「神話の作用」によって位置づけられている、ということの意味します。では、本文ではこのことをどのように説明していますか。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 近代では、宗教の神話をいったん解体した後で、各人が「私」をどのような存在として社会的に位置づけるかを独自の思考法で作り出し、社会契約のフィクションを描き、人間の権利を定めることで宗教的な物語から解放された私たちの存在のしかたを知る。

イ 近代では、宗教の神話をいったん解体した上で、過去から現在に至る「自分」の位置づけを「私」を中心に再構築することで、「創世記」の神話作用をより強固に「自己意識」と結びつけ、無意識の影響をも受けながら成長していく「私」の物語の構造を知る。

ウ 近代では、宗教の神話をいったん解体した上で、世界のはじまりは「私」であるという前提を作り、自己決定は侵害してはならないと絶対化し、社会契約のフィクションを描き、人間の権利を定めることで、この社会を生きる自分たちの存在のしかたを知る。

エ 近代では、宗教の神話をいったん解体したが、新しい神話を形成させてゆく上で、「私」の自己決定というフィクションを作り出し、各自が宗教的な物語を内省し、人権意識を育み、私たちがこの社会でどのような存在として生きていくかを改めて知る。

問三

——(3)「新しい思考の枠組み」としては、どのようなものが考えられるのでしょうか。」とありますが、筆者は「新しい思考の枠組み」を考える上で大事なことは、どのようなことだと述べていますか。四行以内で説明しなさい。

問四

——(4)「世界のあり方」を表して、その中に「人間」を社会的に位置づける。」とありますが、これと同じ意味の表現を、本文から十一文字で抜き出しなさい。

問五

——(5)「言葉というのは、本質的によそよそしいもの」とありますが、「言葉」が「本質的によそよそしい」とは、どういうことですか。二行以内で説明しなさい。

問六

——(6)「そのようなかたちで新しい思考の枠組みを作ること」とありますが、筆者はどうすることによって「新しい思考の枠組み」を作ることができると述べていますか。三行以内で説明しなさい。

問七

A	D
---	---

 に入れる語として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

ア さて イ 例えば ウ むしろ エ つまり

問八

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問九

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 宗教の世界創造の神話も、近代の「私」の神話も、世界と自分とを関係づける上で重要な役割をこれまで果たしてきたが、現代社会においては不要なものである。

イ 言葉は、それが世界と自分の位置を示すものとして機能する場合はよそよそしく響くため、意識があらゆる事柄と関係づけられていく過程を宙吊りにするものである。

ウ 近代社会は、宗教の神話をいったん解体したために、自分でルールを選択する自由を獲得することを可能にしたが、その代償として多様性を喪失してしまったのである。

エ すべての思考の枠組みをいったん宙吊りにし、「ゼロ地点」に立ち返ることにより、人々が同じ世界を見るための新しい思考の枠組みを得ることを可能にするのである。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

うそを見破れないけれども、うそがばれたこともない。そもそも、私はあまりうそをつかないので、そう何度もばれようがないのだけど、ここぞというときにいつかつかのうそはばれなかった。

うそがばれないちばんのこつは、自分がついたうそを覚えていることだ。あとは、ありえそうな内容のうそをつくこと。そして、うそをついた裏付けになることを、うそをつききるまではあらゆる公的な媒体に残さないこと。できればうそをついた目的が完了した後、人目に付くところまで口にしないうこと。だいたいそれだけで、私がつく程度のうそは成立する。

相沢さんはその日、SNSで情報が流れてきたある芸能人のロケに出かけたけれど、先約があるので行けない、なんでどっちでもいい約束なんか入れちゃったんだろう、すつこくすつこく残念、と号泣している顔文字で、仲間たちに訴えて盛大に慰められていた。その先約の相手は私だ。

彼女とは、小規模な布の展示会で知り合った。狭い店で行われた会なのだけれど、盛況だったので、入場者は何十人かずつに制限されていて、私は店へと続く階段の行列で、入場を待っていた。相沢さんは、私の後ろに並んでいた人で、順番待ちの人々に店員さんが出してくれたアイステイヤーがおいしい、という話をなんとはなしに始めて、その場で一緒に行動するようになった。話すうちに、私の着ていたワンピースや、持っているバッグが、その店の布を加工したものであることに気づいた彼女は、私が縫い物ができることにいたく感心し始めた。

その後、流れで一緒に展示会の布を見て回り、その帰りに、店の近くのカフェでお茶を飲むことになった。そこで連絡先を交換し、私と相沢さんは知り合いのようなものになった。相沢さんは私より少し若くて、私よりぜんぜん着ているものにお金をかけている感じの人だったので、細々と自分で作った持ち物を誉められることは、今考えると気分が良かったのかもしれない。私と相沢さんは、その展示会でもらったフライヤーの別のイベントに行く約束をして別れた。

次に会った時、私は相沢さんに彼女と出会った展示会で手に入れた布を使って作ったコサージュをあげた。自分と、友人と、姪の分を作るついでに作った、大して手の掛からないものだったのだが、相沢さんはすこく喜んでくれた。友人と姪は、いわば身内で、私が何をしてもだいたいは優し

30

25

20

15

10

5

く接してくれるものなのだけれど、相沢さんのような完全な他人から評価されたことは新鮮だったし、とてもうれしかった。そして相沢さんは、私の持っていたバッグをしきりにうらやましがり始め、そういうの欲しいなあ、自分に作れる腕があればいいんですけど、私不器用だし時間ないからなあ、と結構な長い間、自虐のようなことを始めた。いつこうにそれが終わらず、だんだん言うことがなくなってきた私が、一日で作れますんで、今度差し上げますよ、と提案すると、相沢さんは、ほんとですかー？ やったー！ と派手に喜んだ。私は、いつもすまん、と言いながら自分の作ったものを友人や姪に押しつけているので、ここに私の作ったものを自発的に欲しがってくれる人がいる、とやや舞い上がっていた部分もあったのかもしれない。

相沢さんと私は、私的な話はほとんどせず、だいたい、どの店がいい雑貨を置いているとか、どの店のドーナツがおいしい、といった、休日の過ごし方の外周のようなものについて会話をすることにとどまっていたのだが、唯一相沢さんが自分の内面を見せたのは、あるボーイズグループにいる芸能人が好きだということについてだった。席の近くを通った別のお客が、その芸能人が愛用しているのと同じブレスレットを身に付けていたことに彼女が強く反応したので、そのことが判明した。芸能人は、主演のドラマが始まったばかりだそうで、相沢さんは今月、有休を何度も取って口先を追って回っているそう。芸能人は、ファンサービスがとても良いらしく、いつもロケ後に時間を取って、サインや握手や撮影をねだるファンたちに対応しているのだという。だから、彼に「会え」ことは欠かせないとのことだ。《あ》

私は、彼女の話がほとんどわからなくて、そんなに人気があるの？ と姪の佐紀にたずねると、まああるけど、どっちかっていうと私たちよりはみのりちゃんの世代の人たちが一所懸命でかわいいとかってものではやすタイプだと思う、と濁した答えを返してきた。みのりちゃんというのは私のことで、佐紀はおそらくその芸能人が好きではないのだろう。姪はそもそも、芸能人には興味がなく、画像を集めたりネットで追ったりしているのは、四国のチームの誰だかよくわからないサッカー選手だ。比較的近場をホームとしている実業団のチームから遠い四国に移籍してしまい、なかなか実物を見ることができないと悔しがっていた。ちなみに、写真を見せてもらったら普通にかっこいい人だった。《い》

60

55

50

45

40

35

そして暇な日があった。誰にでもあるだろう。家事をしないといけないし、部屋の掃除だつてした方がいい、外に出て散歩をする日和でもあるし、趣味に費やしてもいい、レコーダーにたまつた番組を消化するのも悪くないというそんな日に、びっくりするぐらいそのどれもに対してやる気が起らない、という無気力な日だ。心身のバッテリーが消耗したかのように、ただ寝転がって何もできない。かといって睡眠は十分にとつてしまったので、眠ることもできない。そして枕元には携帯電話だけがある。そんな時についてい検査をしてしまう。忙しい普段は、脳の隅にとりあえず追いやつて存在を無視している由無し事が、ここぞとばかりにいざり寄つてくる。《う》

それで私は検索したのだつた。まったく知らなくてもどうでもいい、二度しか会つたことのない相沢さんが好きだと言つていた芸能人について。相沢さんのアカウントはすぐに出てきた。居住地が本人の言つていた住所だつたことと、その芸能人と撮影したという写真で身に付けていたコサージュが、私の作つたものだつたのですぐにわかつた。私の周囲の人は、まったく誰もSNSのたぐいをやらないので、顔をばかして隠しているとはいえ自分の写真をネットにアップロードしているなんて、この人が芸能人みたいだな、と思った。実際、相沢さんは、その芸能人を追いかけている人たちの間では、ちよつとした顔役であるようで、フォロワーもたくさんいた。《え》

その時はそれで終わった。私は彼女から頼まれたバッグを作つて、次に別のイベントに出かけたときに渡した。相沢さんは、ありがとうございませー！ と大きな声で言つた。そして、その時私が着ていた、彼女と出会つた展示会で買った布で作つたワンピースを誉めそやし、誉めちぎり、自分にも一着作つてくれないか、と打診してきた。材料費は出します！ と彼女は元氣よく言つた。私は承諾した。SNSを見たのだが、という話は言ひそびれた。べつに身元を探ろうとしたわけでもなくやましいこともないので、言つても良かったのだけれども。《お》

手を動かすことは好きなので、毎日退社後に淡々と製作をして、行きたい雑貨のイベントについて彼女に予定を問い合わせた。大丈夫です！ と文字上ながらやはり彼女は元氣よく返事をした。で、またバッテリー不足の暇な日が来て、私は何となく彼女のアカウントを見て、会う予定の日に、追いかけている芸能人のロケが重なつて見に行けない、どうして約束なん

か入れてしまったのか、私のほか、と嘆いている発言を読んだ。何とも言えない気分になった。

その日は休みだったので、頼まれた服はとにかく完成させた。私は、レコーダーにたまつていた海外ドラマを見ながら、自分の作つた服にアイロンをかけ、きちんとたたんで、先月行つた服屋の紙袋に入れた。相沢さんは人なつこい人だな、と思った。人なつこいことと善人であることがうまくつながらないことだつてある、と私は三十代半ばにして学習した。

SNSを見たので、とは言わなかったが、自分のせいで後悔をして欲しくなかつたので、本当にその日でもいいんですか？ ××さんはロケをなさつてゐるし、貴重なお休みですし、服を渡す用事はまだ先でも、と延期を申し出たのだが、相沢さんは、早く着たいのでその日がいいです！ と言つてきたのが意味不明だつた。でも一方で、SNSでは仲間たちに、自分の代わりに写真たくさん撮つてきてね、本当に本当に本当に残念、と連日ふれ回つていて、私は、⁽⁴⁾なんだかこの人すごく複雑な人だな、と思い始めた。私が延期していいと言つていて、自分もその日にべつにやりたいことがあるのなら、聞き入れてもいいと思うのだけれども。

私は、自分との先約について彼女が愚痴つていること以上に、その複雑さをだんだん重荷に感じ始めた。数えるほどしか会つたことがないので重荷も何もないのだが、休みを費やしてまで、知人レベルの人の行動に関して「なんで？」と思ひ続けることは時間の浪費に思えた。また、作つた服をあげたくもなくなつた。いや、べつにあげてもいいんだらうけれども、その後彼女と会うつもりはないし、そのわりに彼女が私に借りを作つちゃうよな、と思った。私は、そういう人間関係のバランスの悪さが嫌いだ。怖さすら感じる。

そういうわけで、私はうそをつくことにした。体調不良ですっぽかすのがいちばん手っ取り早いように思えたけれども、当日に知らせると急すぎて、彼女が芸能人の追っかけに行けないかもしれないし、前日だと、次の日に回復する可能性を考慮されてもいいけないし、それはそれで難しいと思つた。

いろいろ考えた結果、姪が体調不良で療養することになりまして、と私は約束の日の三日前に相沢さんに書き送つた。詳しい状況はわからないんですけれども、私は彼女と仲がよいので、できるだけ近くにいたいと思つてゐます。これまでもいろいろな親族の手伝いがあつて、頼まれていたワン

ピースを完成させることも難しいという感じになってきました。すみません。この先の雑貨のイベントにも、行くのは難しいという様子です。すみません。

えー残念です！と相沢さんは書き送ってきた。SNSには、芸能人には会いに行けることになったけど、お友達がくれるはずだったワンピ無理になったみたい、と涙の絵文字付きで語っていて、また仲間たちに慰められていた。私は、うそで手に入れた終日の休みに、姉の家に遊びに行き、佐紀に相沢さんあげるはずだったワンピースをあげた。よく似合っていた。うそに巻き込んだ責任があるので、佐紀に事情を話すと、うそはいけないと思うよ、と返ってきた。私は、つかずにはいらなかったんだよ、と答えた。

これが、私がいちばん最近ついたうそだ。相沢さんとはそれから、一度も連絡を取っていないし、SNSも見っていない。

(津村記久子『うそコンシェルジュ』)

★SNS……ソーシャル・ネットワーク・サービスの略で、インターネット上でコミュニケーションをとれるサービスのこと。

★有休……「有給休暇」のこと。一定期間勤続した労働者が、会社などに申請することで賃金を減らされないまま取得できる休暇のこと。

問一

——(1)「私と相沢さんは知り合いのようなものになった。」とありますが、なぜ「私」は「相沢さん」を「知り合い」ではなく、あえて「知り合いのようなもの」と言っているのですか。三行以内で説明しなさい。

問二

——(2)「一日で作れますんで、今度差し上げますよ、と提案する」とありますが、そのように「提案」してしまった理由を、「私」はどのように振り返っていますか。四行以内で説明しなさい。文末は「…と振り返っている。」とすること。

問三

——(3)「相沢さん」とありますが、ここでの「相沢さん」についての説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ファンサービスの良いボーイズグループにいる芸能人が好きで、愛用しているプレスレットを身に付けてロケ現場を追うことが「相沢さん」の日常生活には不可欠である。

イ 近くのお客から好きな芸能人の主演ドラマのロケがあると聞いて、それ以後はサインや握手や撮影といった交流の場に行くことが「相沢さん」の日常生活には不可欠である。

ウ あるボーイズグループにいる芸能人が好きで、主演ドラマのロケ先を追っており、ロケ後のサインや握手や撮影といった交流の機会が「相沢さん」の日常生活には不可欠である。

エ 最近始まった主演ドラマのロケがあり、ロケ後にサインや握手や撮影をするといったサービスのよい芸能人ばかりを追って回ることが「相沢さん」の日常生活には不可欠である。

問四

- 4) 「なんだかこの人すごく複雑な人だな」とありますが、
 (一) そう感じた理由を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「相沢さん」は、「私」と会う予定の日に追いかけている芸能人のロケが重なってしまったことを後悔するとともに、SNS上の仲間に対して申し訳なく思っている様子もなく、明るく振る舞っているから。

イ 「相沢さん」は、「私」との先約について、SNS上の仲間たちに愚痴を言っている一方で、人なつこい性格も手伝って、「私」に対しては文字の上ではあるが元気のよい返事をしながら断りを入れることができるから。

ウ 「相沢さん」は、「私」との先約と芸能人のロケが重なって、芸能人を見られないことを嘆く一方、自分のSNS上では本当に残念なのは仲間たちと会えないことなのだと正直にふれ回っているから。

エ 「相沢さん」は、「私」との先約によって日程が重なり、芸能人のロケ現場を見に行けなくなったことについて、延期せずその日がいいと「私」に言う一方で、SNS上の仲間たちには愚痴を言っているから。

- (二) 結局、「私」は何をすることにしましたか。そのいきさつや理由も含めて三行以内で説明しなさい。文末は「…ことにした。」とすること。

問五

次の《 》の表現は本文中のものです。本文に入る最もふさわしい箇所を、《あ》《お》の中から一つ選び、記号で答えなさい。

《あなた、これが気になってたでしょ？ 今がそれを知る機会よ。あなたは本当はそれを知りたいのよ。》

問六

- (一) — (5) 「うそ」とありますが、
 「うそのつもりで言ったことが、いつのまにかほんとうになること」という意味のことわざをひらがな九字で書きなさい。

(二)

語句問題です。

(一) — 内の意味に合うA～Dの慣用語やことわざなどの、
 D に入る最もふさわしい言葉を答えなさい。

A A 舌(前に言ったことと違うことを、平気で言うこと。うそをつくこと)

B B に乗せられる(口先だけの、うまい言葉にだまされる)

C C をかく(相手の考えていることと反対のことをして、失敗させる)

D うそも D (うそもときには必要な方法である)

問七

次の I ～ IV に入る最もふさわしい語を、《語群》の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

I マラカスを I と振っている。

II キャベツが II していて美味しいです。

III つくしが III と生えている。

IV 炭酸水のような IV とした飲み物が苦手だ。

《語群》

ア シヤキシヤキ イ きよろきよろ ウ チヨキチヨキ
 エ シユワシユワ オ じゃぶじゃぶ カ シヤカシヤカ
 キ チューチュー ク ムシヤムシヤ ケ によきによき
 コ ちよろちよろ サ もじやもじや シ によろによろ

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「相沢さん」とは数えるほどしか会ったことのない「私」は、あまり親しくないために約束を断ろうと思い、人間関係がこじれないよううそをつこうとしたが、体調不良を理由にするのは姪から認められなかった。

イ 好きな芸能人のロケを見に行きたい「相沢さん」のSNS上の愚痴を見た「私」は、その強い思い入れを知ったので、姪が体調不良だからとうそをついて約束をキャンセルしたことも見破られるだろうと不安だった。

ウ 言動が理解できない「相沢さん」とはもう会いたくなくなった「私」は、体調不良の姪のそばにいてやらなければならないとうそをついて約束を断ったが、あとで姪からは「うそはいけないよ」と言われてしまった。

エ 毎月暇な日を見つけて好きな芸能人のロケを見に行くという「相沢さん」を不審に思った「私」は、その言動も複雑だったために嫌いになったが、人間関係のバランスを考えると、うそをつくのはよくないと反省した。

